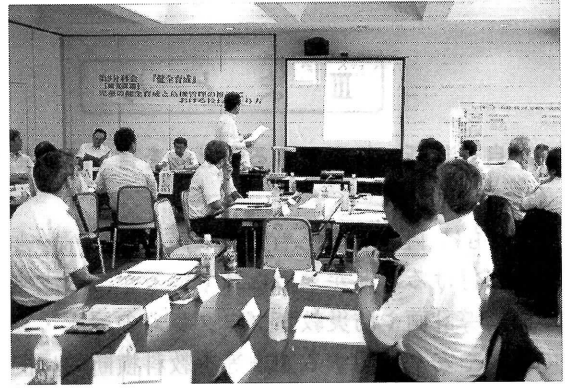


研究課題

児童の健全育成と危機管理の 推進における校長の在り方



I 趣 旨

少子化や核家族化の進行等を背景に、家庭や地域の教育力の低下、人間関係の希薄化や規範意識の低下が指摘されている。加えて、情報化の進展等に伴い、児童生徒の問題行動も多様化・複雑化してきており、自立心や自律性、基本的な生活習慣、人間関係を築く力等の育成など、子どもたちの健全な成長に関わる課題が山積している。

各学校には、地域や学校の特色を生かし、健全育成に期する教育活動の展開とともに、教職員が児童理解に努め、情報を共有し、問題の解決に協働して取り組む学校づくりの推進が求められている。さらに、児童虐待の防止や学校安全の充実、安全で安心な生活の確保等、学校が直面する危機への対応力の向上に向け、学校と家庭や地域社会、関係機関等がそれぞれの機能を生かしながら、より多面的で実効性の高い連携を確立する必要がある。

校長は、組織体制の見直し、教員が子どもと向き合う時間の確保、学習指導の改善など、学校運営の在り方を明確に示すとともに、家庭や地域住民、関係機関と密接に連携・協力できる体制を構築すること。加えて、健全育成上の様々な課題に対し、リーダーシップを発揮し、教職員の連携・協力の下、組織的な対応に努め、的確に判断し迅速に対処できるようにする学校体制の構築を図ることが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、様々な健全育成上の課題に対して、組織的な対応を進めるための具体的な方策を明らかにする。

II 研究発表及び協議

1 研究発表テーマ

「子どもを健やかに育てる学校運営と
家庭・地域、関係機関等との体制づくり」
旭川地区 旭川市立旭川小学校 古高 誠志

2 研究の概要

(1) 研究の視点と研究内容

<リーダーシップの視点1>

いじめや不登校等を生まない学校づくりの推進

【研究内容】

全ての子どもの人権が尊重され、自己実現の喜びを味わえ、安全で安心できる居場所となる学校づくり

<リーダーシップの視点2>

危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取組の推進

【研究内容】

未然防止と再発防止の視点による家庭・地域、関係機関等との連携・協働体制の確立

3 旭川市小学校長会の具体的取組

旭川市小学校長会は、4つの部と8つの地区校長会を組織の両輪として活動を推進している。それらをつなぐ常任委員研修会や部長・地区小学校長会長合同研修会等が機能することで、多様な課題への対応が可能な組織となっている。特に各地区校長会は、年度計画を基に月1回程度の研修会を開催している。各校の経営充実に向け、地区内の情勢を踏まえた学校経営上の諸課題について研修及び情報の交流等を行っている。

(1) 研究発表テーマ

研究の視点と研究内容を踏まえて各校の取組状況を調査したアンケート結果から、以下のことについて、地区校長会の研修等を基に各校が特色ある実践に取り組んでいることが確認された。

- ① 学校経営方針への位置付けと浸透化の取組
- ② 児童理解における組織的な取組
- ③ 生徒指導の機能を高める取組
- ④ 家庭・地域、関係機関等との連携
- ⑤ 小中連携教育の取組

(2) 具体的取組

<提言1>

健全育成の充実に向けた学校運営と校内体制づくり

① 学校経営方針への位置付けと浸透化の取組

いじめや不登校を生まない学校づくりについてのアンケート結果から、多くの校長が「明確なビジョンの構築」と「組織的に機能できる校内体制づくり」を重視している状況が確認できた。いじめや不登校

を生まない学校づくりへの確固たる姿勢を経営方針で示すとともに、教職員はもちろん、家庭や地域、児童にまで浸透させていくための具体的な手立てを講じることが重要ととらえている。その上で、いじめや不登校の芽が生まれない学校風土づくり（未然防止）や、早期発見・早期対応に機能する組織の確立に向けたリーダーシップが発揮されている。

② 児童理解における組織的な取組

いじめに対するリスク・マネジメントについてのアンケート結果からは、あらゆる方法での日常的な児童理解・観察と情報交流が重要との意識がうかがえる。同時に、障がいへの理解を深める組織的な取組をリードする校長の姿勢も欠かせないと認識が伝わってくる。

③ 生徒指導の機能を高める取組

不登校に対するリスク・マネジメントについてのアンケートでは、家庭との緊密な連携が解決への第一歩と押さえる校長が多い。児童の状況はそれぞれ多様で、背景や要因をつかみきれない場合もある。そのため、長期的な取組を要する事例が多く、関わるネットワークも多岐にわたる。

校長は、確かな児童理解に裏付けされた生徒指導の機能化と関係諸団体との円滑な連携にリーダーシップを発揮している。

〈提言 2〉

家庭・地域、関係機関等との連携・協働体制づくり

① 健全育成に関わる団体等との連携

旭川市では、平成14年度に児童生徒の健全育成を目的に小学校長会・中学校長会とのタイアップで「旭川市豊かな心を育てる連絡協議会」を発足させている。

具体の活動は各中学校区をまとまりとした地区委員会で行われ、PTAをはじめ、幼稚園・保育所や小・中・高等学校、市民委員会や福祉協議会、警察、保護司会等から代表が集まって地域に根ざした事業を展開していた。

現在この取組については、活動が各地区・学校において根付いたことから、全市的な組織は発展的に解消された。その後、各地区校長会の判断の下、組織を維持し、継続した取組が続けられている。

② 小中連携教育の取組

旭川市内各中学校区では、小中連携の取組が徐々に進められており、中には、小中連携教育を推進する支援団体として、PTAや市民委員会等を含めた組織が整い始めている学校が見られる。

昨年度、全小中学校で取り組んだ「中学校区における小中連携教育の実践内容」がまとめられ、各校において小中連携に関わる教育活動が推進されている状況を共有できた。

4 成果と課題

本研究を通して、旭川市小学校長会の協働意識に根ざした組織的な活動が、会員個々の指導性を高め、特色ある健全育成の取組等の実現を支えてきたことを改めて確認するとともに、今後の課題を明らかにすることができた。

(1) 成果

- ① 経営方針を浸透させたリーダーシップの実際を知り、自校の経営改善の参考とすることができた。
- ② 健全育成の充実へと導く校内体制を実現した校長の指導の在り方を共有できた。
- ③ 健全育成を支える、校内外の協働体制整備への校長の指導性発揮の重要性を確認できた。
- ④ 小中連携・一貫教育をリードする校長として、果たすべき役割を確認できた。

(2) 課題

- ① 各校の実情を踏まえた情報交流をより一層進める必要がある。
- ② 地域や関係機関との効果的な連携を実現する校長の在り方について、研修を深める必要がある。

5 討議の柱と二つの観点に基づくグループ協議

「健全な児童の育成を図る学校運営と、家庭・地域、関係機関等との協働体制を構築する校長としてのリーダーシップ」を討議の柱に、二つの観点に沿ってグループ討議を行った。

(1) 観点1 「校長の指導性を発揮した学校運営・校内体制づくりの在り方」

- 運営上、特に重点となる箇所を焦点化して示したり、視覚化したりして組織的な取組を推進している。
- 各種会議においては、情報交流だけで終わらず、解決策を話し合うようにしている。
- 学校評価を意図的・積極的に活用することにより、職員の意識化を図っている。
- 中学校区での連携を行い、児童の学習規律の統一や生活習慣の確立に向けた組織づくりを行っている。

(2) 観点2 「相互連携を図った家庭・地域、関係機関等との協働体制づくりの在り方」

- 小中連携だけでなく、幼保も含めた連携を推進することで、職員の参画意識の高揚につながっている。
- 管理職だけでなく職員を含め、地域との情報の共有化を図ることにより、地域と学校の協働的つながりが推進される。
- 学校運営協議会を活用し、地域と学校の双方向の関係づくりを推進する中で職員の経営参画意識を高めている。

Ⅲ ま と め

本分科会では、研究課題「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」の解明のために、旭川地区の研究プロジェクト、提言者の旭川小学校古高誠志校長先生の貴重な研究提言を基に、十勝大会の成果と課題を踏まえた上で、研究の視点1「いじめや不登校等を生まない学校づくりの推進」について、「明確なビジョンの構築」と「組織的に機能できる校内体制づくり」で効果を上げた各校の具体的な取組を報告し、校長の在り方と役割についての実践が発表された。

また、研究の視点2「危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取組の推進」については、健全育成に関わる関係団体等との連携や小中連携教育について各地区と各校の具体的な取組を報告し、学校間連携、地域との連携の在り方についての実践が発表された。

研究協議では、「健全な児童の育成を図る学校運営と、家庭・地域、関係機関等との協働体制を構築する校長としてのリーダーシップ」を討議の柱とし、観点1「校長の指導性を発揮した学校運営・校内体制づくりの在り方」、観点2「相互連携を図った家庭・地域、関係機関等との協働体制づくりの在り方」の二つの観点から、旭川市の実践や成果を検証しながら、各地域での取組を交流し合い理解を深め、成果と課題を確認した。

1 成果

(1) 観点1については

- ① 校長の確固たる姿勢とビジョンを経営方針として提示し、職員に浸透させることができた。特に、学校評価は校長の示す学校経営方針や課題などを共有化・浸透化させることができ、職員の意識化につながることを確認された。
- ② 豊かな人間関係を育む指導体制を確立させ、教師の意識化と責任の明確化、授業力の向上が大切であることが確認された。
- ③ 職員集団、児童集団における学校風土づくり、つまり、児童理解の在り方や職員間の児童交流が重要であることが確認できた。

(2) 観点2については

- ① 小中連携と協働的な教育活動の取組の重要性について成果を確認することができた。特に、9年間を見通して、指導内容の系統化を整理することが重要であることが確認された。
- ② 豊かな心を育むPTA活動や地域を巻き込んだイベントや事業、つまり、学校と地域の双方向のメリットを生む活動の充実が重要であることが確認できた。

2 課題

観点1, 2をまとめて

- ① 幼保小中高、及び地域等との連携や情報交流、行動連携を一層充実させていくことが課題として確認され、さらに連携を図っていくためには、各学校の教育課程を整備し、どう位置付けるかや整合性を図っていくかということが重要であることが確認された。
- ② 各関係機関に対する校長の関わりをどのようにして図っていくかということが課題として確認された。
- ③ 健全育成に関わる校内研修をどう充実させていくかということが、課題として確認された。特に、職員の意識、意欲を高めること、校内リーダーの意識をどう変えていくかが重要であることが確認された。

3 終わりに

私たち校長は、健全育成を学校教育目標達成のための重要な機能として捉え、教育活動全てに渡って作用させていくとともに、各学校においては、これからも家庭・地域、各関係機関との連携・協働体制を確立させながら、全教職員が協働的に取り組んでいくことが必要である。

「第9分科会に参加して」

旭川市立高台小学校 本間 祐一

第9分科会の研究課題は「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」です。

はじめに、研究発表では、旭川市小学校長会から、児童の健全育成を支える校内外の協働体制を確立するために、校長が発揮した指導性について、多くの特色ある実践例が紹介されました。

次に、グループ討議では、学校運営・校内体制づくりや家庭・地域、関係機関等との協働体制づくりにおける校長の指導性について、旭川市の実践例や参加者の実践例をもとに活発な意見交換をしました。

分科会全体を通して、再確認できたことは、学校が抱える多様な課題を解決するために、校長は、明確なビジョンを示し、教員はもとより家庭・地域と共有する方策を一層工夫する必要があるということです。加えて、指導性を十分に発揮し、教員個々の資質・能力の向上を図る取組を進めるとともに適材適所でチームを構成し機能させることや、家庭・地域との良好な関係づくりに努めることが大切であるということです。

今後は、本分科会で学んだことを生かし、校長としての力量を高めるよう、さらに研鑽に励みます。